



今回は5名の隊員の中から漫画家・鮫名星児が、自分の活動を漫画と文章で振り返ります。

協力隊のひとこと

2016年2月号

■大河ドラマ「真田丸」を迎える

いよいよ始まりましたね「真田丸」。出だしは期待どおりですか？それとも予想外ですか？

昨年4月に東御に移住してから市内外様々な真田氏に関する史跡を見に行き勉強もしました。白鳥神社と真田氏の関わりはもちろん、大坂夏の陣で信繁が着た甲冑は実は黒だったとか、上田城の石垣は江戸時代に作られたものだったとか意外なことも多々。

東御市の中でも意外なものがありました。一番関わりが深いのは真田氏の氏神白鳥神社に関することです。この白鳥神社、読み方は「しらとり」です。ところが真田信之と一緒に移った松代での白鳥神社の読み方は「しろとり」なのです。もともとは「ろ」で呼ばれていたのですが、信之の松代移封と同時に東御の白鳥神社は海野神社と呼ばれるようになった後、再び白鳥神社に戻るときに「ろ」と「ら」が入れ替わったという説が有力です。信繁の生前には「幸村」という名前が使われていなかったといわれているのもそうですが、名前というものは時代や解釈で結構変わってしまうのだなあと感じました。それに引き替え地形といったものは変わらないですよ。今見ている白鳥河原は当時信繁が陣を張ったところと同じ、きっと同じなんだ、と思っていたら、江戸時代の戌の満水のせい

で当時とは川の位置が大きく変わっていると教えられました。年月の力とは恐ろしきものです。

余談ではありますが、「真田丸」の出だしでは真田氏と武田氏の関わりが強調されていましたね。それを証明するように白鳥神社の敷地内にも武田氏の家紋である「四つ割り菱」いわゆる「武田菱」が存在します。意外なところにありますので探してみるのはいかがでしょうか？



えびな せいじ 鮫名 星児 (漫画家)